

ネット社会のあり方について青少年とともに考える

～平成30年度 青少年の健全育成を進める県民大会～

平成30年7月7日(土) 相模原市杜のホールはしもとにおいて、「社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり」をテーマに開催されました。

◆オープニング

大会は、県立上溝高等学校の生徒の司会で進められ、県立弥栄高等学校の吹奏楽による演奏で始まりました。迫力満点で力強くすばらしい演奏が大変好評でした。



オープニング

◆基調講演

ジャーナリストの石川結貴氏を講師に迎えて、「ネット社会を生きる子どもたちとどう向き合うか」をテーマに、講演をいただきました。

石川氏は講演の中で、

- ネット・スマホの急速な普及に伴い、SNSを通じての見知らぬ人との交流、ゲームや動画の長時間視聴、不確かな情報の拡散などの実態があり、そこにはやめられない「仕組み」がある。
- ネットの利用には、不特定多数の人と交流できるアプリ、深刻化するSNSいじめ、自撮りなどの危険性が潜んでいる中で、取材する子どもたちの多くが、孤独を感じ、自己肯定感が低くなっている。貧困、虐待、親の無関心、地域からの孤立などの問題を抱える子どもも増えてきているが、身近な大人が受け止め切れていない現実がある。
- 子どもたちの実態、心情を理解し、真に彼らを支えるために、子ども自身にネットの問題について考えさせ、役割と責任を与え、失敗を認めるとともに、大人自身の言葉で自分の人生について語ってほしい。

と語られました。

◆パネルディスカッション

県立上鶴間高等学校の塩浦健吾校長、相模原市青少年指導員連絡協議会副会長の齊藤一城氏、光明学園相模原高等学校の2名の生徒をパネリストに迎え、「ネット社

会で大人にできること」をテーマにして石川氏の進行により行われたパネルディスカッションでは、教員、地域で活動する社会人、青少年それぞれの立場からの発言がなされ、活発な議論が行われました。

○青少年パネリストからは、

- ・ ネットでは便利であるが、反面、全てがネットまかせになってしまう面がある。
- ・ ネットでのトラブルなどに対して、自分の意見を否定せずに最後まで聞いてくれて、一緒に真剣に考えてくれる人は信頼できる。
- ・ 大人と子どもが一緒になってインターネットの使い方を考えていければと思う。
- ・ 私たちはネット上に人間関係の解決を求めがちだが、現実社会の中で居場所が見つかるように、大人にはそのヒントをもらいたいし、その思いを支えてほしい。

○塩浦校長からは、

- ・ 高校ではほとんどの生徒がスマートフォンを所有しており、それに伴うトラブルも増加している。
- ・ 今後もネット社会は更に進展していくので、明確なルールを定めることが大事。子どもたちに正しい道筋を示してあげるのが大人の責任であり、子どもたちの話をきちんと聞くことを意識しながら、学校でもしっかりと教育していきたい。

○齊藤氏からは、

- ・ 今の子どもたちは、人付き合いが苦手な面があり、地域での活動の際には、子どもたち自身が企画し、共同作業で完成させ、互いにコミュニケーションを取れるようにしている。
- ・ ネット社会では情報収集がすぐできるが、努力して得たものや人と人とのつながりの大切さを伝えられるように今後も活動していきたい。

○最後に、石川氏から、

- ・ 大人が綺麗事で説教をしたとしても、それだけでは子どもたちには通じない。子どもと大人がお互い知恵や力を出し合って新しい社会を築いていくことが、双方にとって最終的にはいい形なのではないかと思えます。

と発言がありました。



パネルディスカッションの様子